

御五神島・無人島体験事業

～出会い、発見、ゆめ体験 in 御五神！～

1 事業のねらい

子どもたちが、無人島という制約された環境の中で、自ら創意工夫し、協力し合いながら自然体験活動・生活体験活動に取り組むことにより、自立心や協調性などの社会性を育むとともに、困難なことに直面しても克服できる柔軟で強い精神力を養う。

2 事業の概要

- (1) 対象 小学5年生～中学3年生（42名）
- (2) 参加費 25,000円
- (3) 日程

| 月日（曜日） | 活 動 内 容 | 場 所 |
|----------|---|------------------------|
| 7月27日(日) | 開会式、オリエンテーション、アイスブレイク、テント設営等実習、班別活動計画作成 | 大洲青少年交流の家 |
| 28日(月) | 竹食器製作、生活資材仕分け、荷造り | 大洲青少年交流の家 下灘公民館 |
| 29日(火) | 御五神島入島、開村式、テント設営 | 御五神島（無人島） |
| 30日(水) | 生活用品作り（食器だな、洗濯干場等）、海水浴 | 御五神島（無人島） |
| 31日(木) | 食事作り、シュノーケリング、釣り、星空観察 | 御五神島（無人島） |
| 8月1日(金) | 食事作り、シュノーケリング、釣り | 御五神島（無人島） |
| 2日(土) | 自給自足的生活体験、テントサイトコンテスト | 御五神島（無人島） |
| 3日(日) | 資材整理、スタンプ練習、キャンプファイアー | 御五神島（無人島） |
| 4日(月) | 撤収作業、離島、資材整理 | 御五神島（無人島） 大洲青少年交流の家 |
| 5日(火) | 感想文作成、閉会式、記念撮影 | 大洲青少年交流の家 |

(4) 参加状況

上記の事業概要にて、県内すべての小中学校に募集案内を配布し、5月末から一ヶ月間参加者を募集したところ、15市町から男子86名、女子29名、合計115名の応募があり、抽選により男子30名、女子12名が平成26年度「御五神島・無人島体験事業」に参加することとなった。

(5) 実施にあたって

- ア 島内に生息するイノシシに対しては、電気防護ネットの設置や不寝番の配置、イノシシへの正しい対応法の指導、食材や残飯の適切な管理等により参加者の安全確保に努めた。
- イ 子どもたちへの指導に加え、イノシシ不寝番の配置等、安全管理体制をより充実させるために、小中学校の教員15名が指導者として参加した。
- ウ 愛媛大学教育学部の「地域連携実習」により、6名の教職志望の学生が参加し、サブリーダーとして子どもたちの指導にあたった。
- エ 県立南宇和病院の看護師1名に常駐してもらい、ケガや熱中症等に対応してもらった。

3 活動の記録

○ 7月27日（国立大洲青少年交流の家での活動）

開会式後、グループに分かれて自己紹介や指導者によるアイスブレイクを行う。その後、武道場においてロープワークやテント設営実習を行った。夜には、各班で班旗を作った。



（ロープワーク実習）



（テント設営実習）



（夜の班活動）

○ 7月28日（国立大洲青少年交流の家での活動）

午前中は、御五神島で使用する竹食器の製作やタープ設営実習を行った。午後からは、各班が使用する資材を確認し、コンテナに梱包した。夕食・入浴後、宇和島市の下灘公民館へ移動した。



（ナイフ授与式）



（竹食器作り）



（下灘公民館で就寝準備）

○ 7月29日（御五神島へ入島、無人島体験の開始）

3隻の船にたくさんの資材や食材を乗せ、嵐港を出港した。御五神島に到着後、全員で荷物を運び、開村式を行った。そして、島での生活が始まり、この日の夕食から自分たちで作り始めた。



（荷物をバケツリレー）



（マッチを15本渡します）



（初めての食事）

○ 7月30日～8月3日（御五神島での生活）

テントサイトコンテストや自給自足の日、キャンプファイアー等を行った。無人島生活の後半は、台風接近のため雨が降り、なかなか火がつかないので苦労した。



（食事の様子）



（海水浴）



（冷たい井戸水）



(シュノーケリング)



(つ り)



(火起こし)



(テント内ワケト：食器台)



(賞品の薪をもらう)



(雨の中での朝の集い)



(自給自足的な生活)



(野草の専門家 早見先生)



(キャンプファイアー)

○ 8月4日(御五神島を離島し、国立大洲青少年交流の家へ)

早朝より撤収し、閉村式を行い、御五神島を離れた。途中、大洲臥龍の湯に寄り、一週間の汚れを落とした。午後からは大洲青少年交流の家にもどり、テントやシート、道具類の片付けを行った。



(荷物運び)



(閉 村 式)



(帰りの船の中)

○ 8月5日(最終日、大洲青少年交流の家で事業の振り返り)

事業について振り返り、感想文をまとめた。そして、いよいよ最後の閉会式。修了証を参加者に渡し、班長やリーダーから感想を発表し、記念写真を撮影して解散した。



(参加者代表あいさつ)



(記念写真撮影)



(最後の声出し)

4 「生きる力」の変容

本事業が、参加者の「生きる力」の変容に及ぼす効果を明らかにするために、国立青少年教育振興機構より提供された『「生きる力」の測定・分析ツール』を使用し、調査を実施した。調査は、事業初日7月27日の開会式後（事前）と最終日8月5日の感想文作成の前（事後）の2回行ない、有効回答数は42（参加者42名）であった。

★ 分析結果

「生きる力」の変容（得点範囲：28～168点）

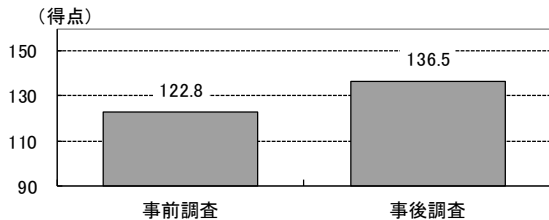


図1. 「生きる力」の平均値の推移

「心理的社会的能力」の変容（得点範囲：14～84点）

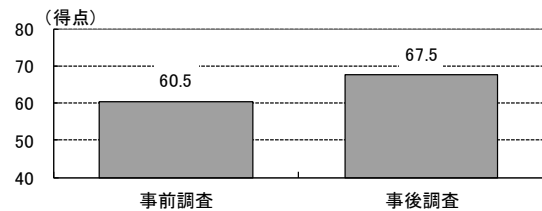


図2. 「心理的社会的能力」の平均値の推移

「徳育的能力」の変容（得点範囲：8～48点）

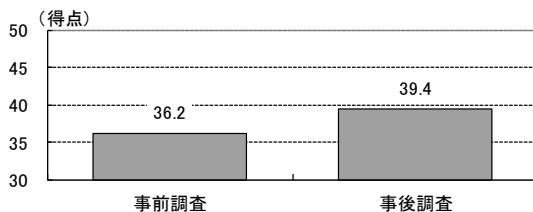


図3. 「徳育的能力」の平均値の推移

「身体的能力」の変容（得点範囲：6～36点）

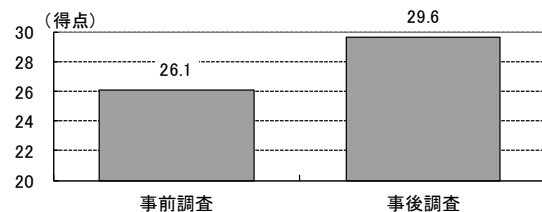


図4. 「身体的能力」の平均値の推移

事前と事後では、「生きる力」が13.7ポイント向上し、島での3不の生活（不自由・不便・不足）は、参加者の「生きる力」の変容に影響を与えたと言えるであろう。

今回で3回目の調査となったが、いずれも「生きる力」について10ポイント以上向上している。今後とも調査を継続し、本事業が参加者の「生きる力」に与える影響を検証していきたい。

5 成果と課題

事業最終日に書いた子供たちの感想文には、「仲間や協力することの大切さ」「便利な日常生活への感謝」「生活を支えてくれる家族への感謝」「自分自身の成長・自信」等が綴られており、普段の生活ではなかなか意識することのできない様々な気づきを提供することができた。

また、指導者として参加した教員や愛媛大学教育学部の学生の感想文にも、「子供たちの成長や変容」「子供たちとの触れ合いの中での感動体験」「声掛けや支援の在り方」「活動を促す待つ姿勢」等が綴られており、野外生活体験を通じたよりよい研修の機会になっていると考えている。

今後とも、愛媛の子どもたちに豊かな体験活動を提供できるよう、熱中症や事故・ケガの防止、イノシシ対策等の安全・衛生管理の徹底、水や食材、キャンプ資材の見直し等を行い、安全な事業の実施を図るとともに、指導者やボランティアの継続的な確保に努めていきたい。

なお、公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団主催の「第13回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」において、「御五神島・無人島体験事業」を実施する無人島チャレンジ実行委員会が一般部門の最優秀賞である「安藤百福賞」を受賞した。1月31日（土）に横浜市のカップヌードルミュージアムにおいて表彰式が行われ、賞状と副賞としてチキンラーメン1年分及び100万円が贈呈された。